Mobile Gear
MC-CS12
通信クイックリファレンス

目次

＊）本書は、ＭＧメール、ＭＧ ＦＡＸを利用される方のためのクイックリファレンスです。

本書の目的

本書は、MGメール、MG FAXを使用される方のための通信クイックリファレンスです。使用する場所や方法に応じた設定と操作が簡単に、素早くわかるように記述されています。外出先などで必要に応じて参照してください。

本書の表記

本書は、実際の操作の流れに沿って記述しています。
左側に表記されている画面で行う操作が右側に説明されています。その操作を行った結果、表示される画面が次の行の左側に表記されます。

➔	操作の流れを表します。続けて行ってください。
☞	参照先の項目を表します。
…	前述の操作を行った結果を表します。

困ったときは？

Mobile Gearをお使いになっていて分からないこと、困ったことがありましたら、下記のインフォメーションセンターまでご連絡ください。

NEC　Mobile Gear インフォメーションセンター
03-3798-2088
受付時間：午前 9:00～午後 5:00
月曜～金曜（土曜、日曜、祝日を除く）

電話番号はよくお確かめのうえおかけください。

移動したら必ずすること

Mobile Gear を移動先で使う場合、しばしば普段とは違う通信設定にする必要が生じます。移動先では、どの設定をどう変えればいいのか、まず以下の点を移動先の環境と照らし合わせて、変更すべき点を確認してください。

①Mobile Gear の通信設定の確認

Mobile Gear の通信設定は、「通信環境」と「発信元」という以下の2つの部分から構成されています。移動することにより変更の必要が生じる部分を設定しなおして通信を行います。

変更方法については、「Mobile Gear でフィールドアクセス」（P７～）を参照してください。

通信環境（通信を行うために必要となる設定）

・回線設定→使用するモデムやセルラカード等を指定
変更例：外出先で携帯電話につなげて使う場合など
（P8,14,18,23,30,35,36 参照）
・ホストの選択→PC-VAN,NIFTY-Serve 等を指定
変更例：PC-VAN から NIFTY-Serve に接続し直す場合など
（P9,14,18,23,30 参照）
・ＩＤ設定→ホストへ接続する際のＩＤ、パスワードを指定
変更例：別のＩＤ、パスワードでログインする場合など
（P9,14,18,23,30 参照）
・接続先→最寄りのアクセスポイントを指定
変更例：普段とは異なる市外局番の地域で使用する場合など
（P9,14,18,24,30 参照）

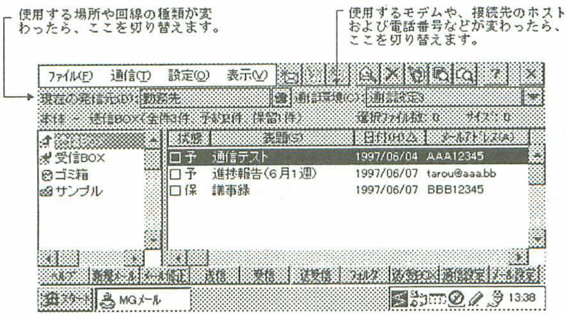
発信元（通信を行う場所に関する設定）

・電話回線→市外局番、国番号、回線種別（トーンまたはパルス）
変更例：市外局番が異なる地域に移動した場合など
(P11,16,20,25,32,34,35,37 参照)

・ダイヤルパターン→外線発信番号が必要かどうか等
変更例：ホテルの部屋から通信を行う場合など
(P11,16,20,25,32,34,36,37 参照)

※）発信元は「ダイヤルのプロパティ」とも呼ばれます。

通信環境と発信元の設定は、設定を作成して登録してしまえば、あとは使用する場所や環境に合わせて切り替えるだけで通信を行うことができます。あらかじめいくつか作成しておくことで、使用する場所に合わせて自由に組み合わせることができます。



参考 接続先（アクセスポイント）は、通信を行う場所から最も近いものを指定するようにすれば、回線料金を節約することができます。

②移動先で使用する回線の確認

■回線の種類

回線は、プッシュ回線（トーン）とダイヤル回線（パルス）の２種類があります。ご使用になっている回線を確認して設定してください。

・プッシュ回線（トーン）

ダイヤルする時に「ピッポッパ」と鳴る回線です。プッシュホンタイプの電話機でもダイヤル回線の場合がありますので、注意してください。

・ダイヤル回線（パルス）

ダイヤルする時に「ジジジ」と鳴る回線です。

■回線の確認

移動先で回線の種別が不明な場合は、必ず使用できるかどうかを確認してから接続するようにしてください。出張先のホテル等ならフロント等で回線の種類（トーンまたはパルス）を問い合わせてください。ご自宅の場合は、ＮＴＴ等使用されている回線の問い合わせ窓口に確認してください。

注意！オフィスやホテル等の電話機は、デジタル式構内交換機（PBX）を使用している場合があります。その場合には接続しないでください。故障の原因となります。

■発信番号・付加番号の確認

オフィスやホテル等の内線を使用している場所から外線に電話をかける時は、最初に外線発信番号（「0」等）を押す必要があります。また、第二電電などを使う場合は、付加番号の設定が必要になります。このような、発信番号や付加番号の設定が必要かどうかを確認します。

Mobile Gear でフィールドアクセス

Mobile Gear は、様々な手段でどこでも好きな場所から電子メールや FAX を送受信することができます。

1 デジタル携帯電話につなげて使う

Mobile Gear をデジタル携帯電話につなげて、いつでもどこでも電子メールやＦＡＸの送受信が出来るようにします。☞「デジタル携帯電話につなげて使う」P8 を参照してください。

2 PHS につなげて使う

PHS はコスト面で、デジタル携帯電話よりも手軽に利用できるところがメリットと言えるでしょう。Mobile Gear を PHS に接続して PIAFS カード等を利用する場合は、☞「PHS につなげて使う」P13 を参照してください。

3 ディジタル公衆電話につなげて使う

ディジタル公衆電話は、通称「グレ電」と呼ばれる、グレイの色をした公衆電話で、データ通信用のモジュラージャックがついています。携帯電話や PHS が手元になくても街角からデータ通信できる便利な電話です。Mobile Gear をディジタル公衆電話に接続して利用する場合は、☞「ディジタル公衆電話につなげて使う」P23 を参照してください。

4 2線式電話回線（モジュラータイプ）につなげて使う

２線式電話とは、一般の家庭などにもある通常の電話のことです。Mobile Gear を自宅の電話回線につなげたり、オフィスや出張先のホテルの電話回線につないで利用する場合は、☞「２線式電話回線（モジュラータイプ）につなげて使う」Ｐ29 を参照してください。

注意！ キーテレホン、ビジネスホン、ホームテレホン、デジタル式構内交換機（PBX）には接続しないでください。故障の原因となります。

1 デジタル携帯電話につなげて使う

Mobile Gear をデジタル携帯電話につなげて使用する場合は、以下の手順で設定を行います。

①通信環境の設定（作成・切替・変更）
②発信元の設定（作成・切替・変更）
③機器の接続

用意するもの

Mobile Gear とデジタル携帯電話をデジタルセルラカードおよび添付のケーブルで接続して使用します。以下のものが必要になります。

・Mobile Gear
・デジタル携帯電話
・デジタルセルラカード
・デジタルセルラカード添付のケーブル

通信環境の設定（作成・切替・変更）

デジタル携帯電話を使用できる通信環境の設定（作成・切替・変更）を行います。

■通信環境を新規作成する場合

（都内でデジタル携帯電話につなげて使用する設定例）

Mobile Gear の電源を OFF にし、デジタルセルラカードをＰＣカード挿入口に差し込み、Mobile Gear の電源を ON にしてから以下の設定を行います。

画面	操作
デスクトップ画面	①「ＭＧメール」アイコン
メール一覧画面	② [通信設定]
通信設定画面	③ [設定追加]
通信環境入力画面	④ 通信環境名を入力（例:デジタル携帯） [次へ]
回線設定選択画面	⑤ <新しい設定>を選択 [次へ]

回線設定画面	⑥ 「モデムを選んでください（M）」の [▼] でリストを表示。デジタルセルラカードの名称を選択（例：PC-9801N-J13） [OK]
ホスト選択画面	⑦ ホストを選択（例：PC-VAN） [追加 →]　[次へ]
ID 設定選択画面	⑧ 〈接続時に指定〉を選択 [次へ]
接続先選択画面	⑨ 〈新しい設定〉を選択 [次へ]
接続先設定画面	⑩ 電話番号１（A） [参照]
接続先選択画面	⑪ 接続先を選択（例：（東京 28800 V.42bis）） [OK]
接続先設定画面	⑫ [OK]
確認画面	⑬ 確認後 [完了]

[注意！] ⑩の画面に [参照] が表示され、接続先を一覧画面から選択できるのは⑦でホストに PC-VAN または NIFTY-Serve を選んだ場合です。その他のホストを指定した場合は、接続先の電話番号を直接入力してください。

■通信環境を切り替える場合

デジタル携帯電話用の通信環境がすでに作成されている場合は、以下の手順で通信環境を切り替えます。

Mobile Gear の電源を OFF にしデジタルセルラカードをＰＣカード挿入口に差し込み、Mobile Gear の電源を ON にしてから以下の設定を行います。

画　面	操　作
デスクトップ画面	① 「ＭＧメール」アイコン
メール一覧画面	② [▼] で通信環境名のリストを表示
メール一覧画面	③ 通信環境名を選択

[参考] 通信設定画面でも通信環境の切り替えができます。

■通信環境を変更する場合

作成した通信環境の内容を一部変更する場合は、通信設定画面で必要な変更を行います。

画面	操作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② 通信設定
通信設定画面	③ 必要に応じて、ホスト追加 ホスト削除 回線設定 接続先 ID メール動作 接続順
通信設定画面	④ ☒

参考 ホスト削除 接続先 ID メール動作 接続順 は、あらかじめ一覧の中から変更するホストを反転表示させておく必要があります。

発信元の設定（作成・切替・変更）

どこから通信を行うかによって、発信元の作成・切替・変更を行います。

参考 外線発信番号と付加番号の設定または変更を行う場合は、「いろいろな場所での通信設定」(P34)を参照してください。

■新しい発信元を作成する場合

（都内でデジタル携帯電話につなげて使用する設定例）

通信を行う地域、場所の情報を定義した「発信元」を作成します。

画面	操作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② ☎
通信のプロパティ画面	③ ダイヤル設定から 発信元の 追加
発信元の作成画面	④ 新しい発信元の名前を入力（例：都内出先）OK

通信のプロパティ画面	⑤	電話回線の設定 市外局番（Ａ）：（例：０８０） 国番号（Ｃ）：（例：８１） 回線：トーン
通信のプロパティ画面	⑥	[編集]
ダイヤルパターンの編集画面	⑦	ダイヤルパターンの編集 必要に応じて以下を設定する（外線発信番号、付加番号の設定／変更は、P 35, 37 を参照） 市内通話（Ｌ）： 市外通話（Ｄ）： 国際通話（Ｉ）： [OK]
通信のプロパティ画面	⑧	[OK]

■発信元を切り替える場合

通信を行う地域、場所の情報を定義した「発信元」がすでに作成されている場合は、以下の手順で発信元を切り替えます。

画　面		操　作
メール一覧画面	①	
通信のプロパティ画面	②	発信元の[▼]で発信元のリストを表示
通信のプロパティ画面	③	発信元を選択して[OK]

[参考] 通信設定画面から[ダイヤルのプロパティ]を選択しても通信のプロパティ画面が表示されます。

■発信元を変更する場合

通信のプロパティ画面に任意の発信元の設定を表示させ、必要な個所だけ変更して通信することもできます（トーンとパルスを替える等）。ただし、変更された設定のまま登録されるので、通信後はなるべくもとの設定に戻しておくようにしてください。次に使用する際に設定が変更されているままだと通信できなくなる可能性があります。

機器の接続と通信手順

①上記の設定後、Mobile Gear の電源を一旦 OFF にする。
②デジタル携帯電話の電源 OFF の状態で、デジタルセルラカードに添付されているケーブルでカードとデジタル携帯電話を接続する。
③Mobile Gear→デジタル携帯電話の順で電源を ON にする。
④電子メールの送受信を行う（P 38 参照）。
⑤携帯電話→Mobile Gear の順で電源を OFF にする。
⑥デジタルセルラカードを取り出す。

2 ＰＨＳにつなげて使う

Mobile Gear を PHS につなげて使用する場合は、「PIAFS」と「みなし音声接続」方式の２種類の方法があります。それぞれ以下の手順で設定を行います。

①通信環境の設定（作成・切替・変更）

②発信元の設定（作成・切替・変更）

③機器の接続

①ＰＩＡＦＳ

用意するもの

Mobile Gear と PHS をＰＩＡＦＳで使用する場合は、以下のものが必要になります。

- Mobile Gear
- PHS（PIAFS 対応）
- PIAFS 専用カード
- PIAFS カード添付のケーブル

ＰＩＡＦＳ用通信環境の設定（作成・切替・変更）

PIAFS を使用できる通信環境の作成・切替・変更を行います。

■通信環境を新規作成する場合

（都内でPIAFSにより通信を行う設定例）

Mobile Gear の電源を OFF にし PIAFS 専用カードをＰＣカード挿入口に差し込み、Mobile Gear の電源を ON にしてから以下の設定を行います。

画　面	操　作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② [通信設定]
通信設定画面	③ [設定追加]
通信環境入力画面	④ 通信環境名を入力(例：PIAFS 接続) [次へ]
回線設定選択画面	⑤ <新しい設定>を選択して [次へ]
回線設定画面	⑥「モデムを選んでください (M) 」の[▼]でリストを表示。ＰＩＡＦＳ専用カードの名称を選択（例：パルディオ　データカード DC-1P) [OK]
ホスト選択画面	⑦ ホストを選択(例：PC-VAN) [追加 →] [次へ]
ID 設定選択画面	⑧〈接続時に指定〉を選択して [次へ]
接続先選択画面	⑨〈新しい設定〉を選択して [次へ]
接続先設定画面	⑩ 電話番号１（Ａ） の [参照]
接続先選択画面	⑪ 接続先を選択（例：東京：(PIAFS 専用)) [OK]
接続先設定画面	⑫ [OK]
確認画面	⑬ 確認後、[完了]

[注意！] ⑩の画面で [参照] が表示され、接続先を一覧画面から選択できるのは⑦でホストに PC-VAN または NIFTY-Serve を選んだ場合です。その他のホストを指定した場合は、接続先の電話番号を直接入力してください。

■通信環境を切り替える場合

PIAFS 用の通信環境がすでに作成されている場合は、以下の手順で通信環境を切り替えます。

Mobile Gear の電源を OFF にし PIAFS 専用カードをＰＣカード挿入口に差し込み、Mobile Gear の電源を ON にしてから以下の設定を行います。

画　面	操　作
デスクトップ画面	① 「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② [▼] で通信環境名のリストを表示
メール一覧画面	③ 通信環境名を選択

[参考] 通信設定画面でも通信環境の切り替えができます。

■通信環境を変更する場合

作成した通信環境の内容を一部変更する場合は、通信設定画面で必要な変更を行います。

画　面	操　作
デスクトップ画面	① 「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② [通信設定]
通信設定画面	③ 必要に応じて、[ホスト追加] [ホスト削除] [回線設定] [接続先] [ID] [メール動作] [接続順]
通信設定画面	④ [×]

[参考] [ホスト削除] [接続先] [ID] [メール動作] [接続順] は、あらかじめ一覧の中から変更するホストを反転表示させておく必要があります。

PIAFS用発信元の設定（作成・切替・変更）

どこから通信を行うかによって、発信元の作成・切替・変更をする必要があります。

[参考]外線発信番号と付加番号の設定または変更を行う場合は、「いろいろな場所での通信設定」(P34)を参照してください。

■新しい発信元を作成する場合

（都内でPIAFSにより通信を行う設定例）

通信を行う地域、場所の情報を定義した「発信元」を作成します。

画　面	操　作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② 
通信のプロパティ画面	③ ダイヤル設定から 発信元の[追加]
発信元の作成画面	④ 新しい発信元の名前を入力（例：都内出先）[OK]
通信のプロパティ画面	⑤ 電話回線の設定 市外局番（A）：（例：０６０） 国番号（C）：（例：８１） 回線：トーン
通信のプロパティ画面	⑥ [編集]
ダイヤルパターンの編集画面	⑦ ダイヤルパターンの編集 必要に応じて以下を設定する（外線発信番号、付加番号の設定／変更は、P35,37を参照） 市内通話（L）： 市外通話（D）： 国際通話（I）： [OK]
通信のプロパティ画面	⑧ [OK]

■発信元を切り替える場合

通信を行う地域、場所の情報を定義した「発信元」がすでに作成されている場合は、以下の手順で正しい発信元に切り替えます。

画　面	操　作
メール一覧画面	① 
通信のプロパティ画面	② 発信元の[▼]で発信元のリストを表示
通信のプロパティ画面	③ 発信元を選択して[OK]

[参考] 通信設定画面から[ダイヤルのプロパティ]を選択しても通信のプロパティ画面が表示されます。

■発信元を変更する場合

通信のプロパティ画面に任意の発信元の設定を表示させ、必要な個所だけ変更して通信することもできます（トーンとパルスを替える等）。ただし、変更された設定のまま登録されるので、通信後はなるべくもとの設定に戻しておくようにしてください。次に使用する際に設定が変更されているままだと通信できなくなる可能性があります。

機器の接続と通信手順（ＰＩＡＦＳ）

①上記の設定後、Mobile Gear の電源を一旦 OFF にする。
②PHS の電源を OFF にして、PIAFS 専用カード添付のケーブルでカードと PHS を接続する。
③Mobile Gear→PHS の順で電源を ON にする。
④電子メールの送受信を行う（P38 参照）。
⑤PHS→Mobile Gear の順で電源を OFF にする。
⑥ PIAFS 専用カードを取り出す。

②みなし音声接続

用意するもの

Mobile Gear と PHS をみなし音声接続により使用する場合は、以下のものが必要になります。

・Mobile Gear
・PHS
・携帯電話用接続アダプタ（PC-CM901）

みなし音声接続用通信環境の設定（作成・切替・変更）

みなし音声接続で PHS を使用するための通信環境の作成・切替・変更を行います。

■通信環境を新規作成する場合
（都内でみなし音声接続により通信を行う設定例）

画 面	操 作
デスクトップ画面	① 「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② [通信設定]
通信設定画面	③ [設定追加]
通信環境入力画面	④ 通信環境名を入力（例：みなし音声接続）[次へ]
回線設定選択画面	⑤ <手動（PHS, 音響カプラ）>を選択して [次へ]
ホスト選択画面	⑥ ホストを選択（例：PC-VAN） [追加 →] [次へ]
ID 設定選択画面	⑦ 〈接続時に指定〉を選択して [次へ]
接続先選択画面	⑧ 〈新しい設定〉を選択して [次へ]
接続先設定画面	⑨ 電話番号1（A）の [参照]
接続先選択画面	⑩ 接続先選択（例：東京（28800 V.42bis）[OK]

接続先設定画面	⑪ OK
確認画面	⑫ 確認後、完了

注意！ ⑩の画面に 参照 が表示され、接続先を一覧画面から選択できるのは⑦でホストに PC-VAN または NIFTY-Serve を選んだ場合です。その他のホストを指定した場合は、接続先の電話番号を直接入力してください。

■通信環境を切り替える場合

みなし音声接続用の通信環境がすでに作成されている場合は、以下の手順で通信環境を切り替えます。

画面	操作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② ▼ で通信環境のリストを表示
メール一覧画面	③ 通信環境名を選択

参考 通信設定画面でも通信環境の切り替えができます。

参考 通信設定画面から回線設定の一覧を表示させて「手動(PHS,音響カプラ)」を選択することもできます。

■通信環境を変更する場合

作成した通信環境の内容を一部変更する場合は、通信設定画面で必要な変更を行います。

画面	操作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② 通信設定
通信設定画面	③ 必要に応じて、ホスト追加 ホスト削除 回線設定 接続先 ID メール動作 接続順
通信設定画面	④ ☒

[参考] [ホスト削除] [接続先] [ID] [メール動作] [接続順] は、あらかじめ一覧の中から変更するホストを反転表示させておく必要があります。

みなし音声接続用発信元の設定（作成・切替・変更）

どこから通信を行うかによって、発信元の作成・切替・変更をする必要があります。

[参考]外線発信番号と付加番号の設定または変更を行う場合は、「いろいろな場所での通信設定」(P34)を参照してください。

■新しい発信元を作成する場合

（都内でみなし音声接続により通信を行う設定例）

通信を行う地域、場所の情報を定義した「発信元」を作成します。

画面	操作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② 
通信のプロパティ画面	③ ダイヤル設定から発信元の[追加]
発信元の作成画面	④ 新しい発信元の名前を入力（例：都内出先）[OK]
通信のプロパティ画面	⑤ 電話回線の設定 市外局番（A）：（例：０４０） 国番号（C）：（例：８１） 回線：トーン
通信のプロパティ画面	⑥ [編集]
ダイヤルパターンの編集画面	⑦ ダイヤルパターンの編集 必要に応じて以下を設定する（外線発信番号、付加番号の設定／変更は、P 35, 37 を参照） 市内通話（L）： 市外通話（D）：

		国際通話（Ｉ）： [OK]
通信のプロパティ画面	⑧	[OK]

■発信元を切り替える場合

通信を行う地域、場所の情報を定義した「発信元」がすでに作成されている場合は、以下の手順で正しい発信元に切り替えます。

画　面		操　作
メール一覧画面	①	
通信のプロパティ画面	②	発信元の[▼]で発信元のリストを表示
通信のプロパティ画面	③	発信元を選択して[OK]

[参考] 通信設定画面から[ダイヤルのプロパティ]を選択しても通信のプロパティ画面が表示されます。

■発信元を変更する場合

通信のプロパティ画面に任意の発信元の設定を表示させ、必要な個所だけ変更して通信することもできます（トーンとパルスを替える等）。ただし、変更された設定のまま登録されるので、通信後はなるべくもとの設定に戻しておくようにしてください。次に使用する際に設定が変更されているままだと通信できなくなる可能性があります。

機器の接続と通信手順（みなし音声接続）

①上記の設定後、Mobile Gearの電源を一旦OFFにする。
②携帯電話用接続アダプタ（PC-CM901）をモジュラージャックに接続する。
③もう一方をPHSのイヤホンジャックに接続する。
④Mobile Gear→PHSの順で電源をONにする。
⑤電子メールで通信を開始する。
⑥「××××に電話をかけてください」というメッセージが表示されるので、OKを選択する。
手動発信用のターミナル画面に切り替わります。
⑦PHSで電話番号を入力し、通話キーを押す。
⑧手動発信用ターミナルからATコマンドを入力する。
（例：ATD Enter）
⑨手動用ターミナル画面にCONNECT xxxxが表示された後、[ファイル]－[継続]を選択し、パソコン通信画面に切り替える。

3 ディジタル公衆電話につなげて使う

Mobile Gear をディジタル公衆電話につなげて使用する場合は、以下の手順で設定を行います。
①通信環境の設定（作成・切替・変更）
②発信元の設定（作成・切替・変更）
③機器の接続

用意するもの

Mobile Gear とディジタル公衆電話をモジュラーケーブルにより接続して使用します。以下のものが必要になります。
・Mobile Gear
・モジュラーケーブル（添付）

通信環境の設定（作成・切替・変更）

ディジタル公衆電話と接続して使用できる通信環境の作成･切替・変更を行います。

■通信環境を新規作成する場合
（都内でディジタル公衆電話につなげて通信を行う設定例）

画面	操作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② [通信設定]
通信設定画面	③ [設定追加]
通信環境入力画面	④ 通信環境名を入力（例：ディジタル公衆電話） [次へ]
回線設定選択画面	⑤ <ディジタル公衆電話>を選択して [次へ]
ホスト選択画面	⑥ ホストを選択（例：PC-VAN） [追加 →] [次へ]
ID設定選択画面	⑦ 〈接続時に指定〉を選択して [次へ]

接続先選択画面	⑧〈新しい設定〉を選択して [次へ]
接続先設定画面	⑨ 電話番号1（A） の [参照]
接続先選択画面	⑩ 接続先を選択（例：〈東京〈28800　V. 42bis〉）[OK]
接続先設定画面	⑪ [OK]
確認画面	⑫ 確認後、[完了]

[注意！] ⑩の画面に [参照] が表示され、接続先を一覧画面から選択できるのは⑦でホストに PC-VAN または NIFTY-Serve を選んだ場合です。その他のホストを指定した場合は、接続先の電話番号を直接入力してください。

■通信環境を切り替える場合

ディジタル公衆電話用の通信環境がすでに作成されている場合は、以下の手順で通信環境を切り替えます。

画　面	操　作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② [▼] で通信環境のリストを表示
メール一覧画面	③ 通信環境を選択

[参考] 通信設定画面でも通信環境の切り替えができます。

■通信環境を変更する場合

作成した通信環境の内容を一部変更する場合は、通信設定画面で必要な変更を行います。

画　面	操　作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② [通信設定]
通信設定画面	③ 必要に応じて、[ホスト追加] [ホスト削除] [回線設定] [接続先] [ID] [メール動作] [接続順]
通信設定画面	④ [×]

[参考] [ホスト削除] [接続先] [ID] [メール動作] [接続順] は、あらかじめ一覧の中から変更するホストを反転表示させておく必要があります。

発信元の設定（作成・切替・変更）

どこから通信を行うかによって、発信元の作成・切替・変更をする必要があります。

[参考]外線発信番号と付加番号の設定または変更を行う場合は、「いろいろな場所での通信設定」(P34)を参照してください。

■新しい発信元を作成する場合

（都内でディジタル公衆電話につなげて通信する設定例）

通信を行う地域、場所の情報を定義した「発信元」を作成します。

画面	操作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② 
通信のプロパティ画面	③ ダイヤル設定から 発信元の [追加]
発信元の作成画面	④ 新しい発信元の名前を入力（例：都内出先） [OK]
通信のプロパティ画面	⑤ 電話回線の設定 市外局番（A）：（例：０３） 国番号（C）：　（例：８１） 回線：トーン
通信のプロパティ画面	⑥ [編集]
ダイヤルパターンの編集画面	⑦ ダイヤルパターンの編集 必要に応じて以下を設定する（外線発信番号、付加番号の設定／変更は、P35,37 を参照） 市内通話（L）： 市外通話（D）：

	国際通話（I）： [OK]
通信のプロパティ画面	⑧ [OK]

■発信元を切り替える場合

通信を行う地域、場所の情報を定義した「発信元」がすでに作成されている場合は、以下の手順で正しい発信元に切り替えます。

画　面	操　作
メール一覧画面	① 
通信のプロパティ画面	② 発信元の[▼]で発信元のリストを表示
通信のプロパティ画面	③ 発信元を選択して[OK]

[参考] 通信設定画面から[ダイヤルのプロパティ]を選択しても、通信のプロパティ画面が表示されます。

■発信元を変更する場合

通信のプロパティ画面に任意の発信元の設定を表示させ、必要な個所だけ変更して通信することもできます（トーンとパルスを替える等）。ただし、変更された設定のまま登録されるので、通信後はなるべくもとの設定に戻しておくようにしてください。次に使用する際に設定が変更されているままだと通信できなくなる可能性があります。

機器の接続と通信手順

①上記の設定後、Mobile Gear の電源を一旦 OFF にする。
②添付のモジュラーケーブルを Mobile Gear のモジュラージャックに差し込む。
③モジュラーケーブルのもう片方をディジタル公衆電話の「アナログ」のジャックに差し込む。
④ディジタル公衆電話の切替ボタンを押して、電話と ISDN 端子を切り替える(切替ボタンはアナログジャックの左側や画面などにあります)。
⑤Mobile Gear の電源を ON にしてテレフォンカードまたは硬貨を入れる。
⑥電子メールの送受信を行う(P38 参照)。

ＮＴＴカードＣを使う場合

ディジタル公衆電話でＮＴＴカードＣを利用することができます。以下のような手順で設定を行ってください。

①通信環境と発信元の設定を行う（Ｐ18,20 の場合と同じです）。回線設定で、「手動（PHS, 音響カプラ）」を選択する。
②添付のモジュラーケーブルを Mobile Gear の電源を OFF にしてからモジュラージャックに差し込む。
③モジュラーケーブルのもう片方をディジタル公衆電話の「アナログ」のジャックに差し込む。
④電子メールの送受信で通信を開始する。
「×××××に電話をかけて下さい」というメッセージが表示されます。
⑤ディジタル公衆電話のオンフックボタンを押してカード C を挿入する。
⑥ディジタル公衆電話からの音声指示に従って、暗証番号を入力する。
⑦Mobile Gear の電源を ON にする。
⑧ディジタル公衆電話からの音声指示に従って、Mobile Gear のメッセージに表示されている接続先電話番号を入力する。

⑨接続先と接続されたら、ディジタル公衆電話の切替ボタンを押して、電話とISDN端子を切り替える。
（切替ボタンは接続端子の左側や画面などにあります。）

⑩手動用ターミナル画面からATコマンドを入力する。
（例：ATD Enter）

⑪手動用ターミナル画面にCONNECT xxxxが表示された後、[ファイル]ー[継続]を選択し、パソコン通信画面に切り替える。

4 2線式電話回線（モジュラータイプ）につなげて使う

2線式電話とは、通常のモジュラー式電話のことです。Mobile Gear を自宅の電話回線につなげたり、オフィスや出張先のホテルの電話回線につないで利用する場合は、以下の手順で設定を行います。

①通信環境の設定（作成・切替・変更）
②発信元の設定（作成・切替・変更）
③機器の接続

注意！　キャッチホン回線に接続して通信を行っている時に電話がかかって来ると、キャッチホンが働いてしまい、通信が切れてしまいますので注意してください。キャッチホンIIでは、「通信中に割り込まない」という設定にすることができます。

用意するもの

Mobile Gear と2線式電話回線をモジュラーケーブルにより接続して使用します。以下のものが必要になります。

・Mobile Gear
・モジュラーケーブル

通信環境の設定（作成・切替・変更）

2線式電話回線と接続して使用できる通信環境の作成･切替･変更を行います。

■通信環境を新規作成する場合
（ホテルの部屋から外線発信する例）

画面	操作
デスクトップ画面	① 「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② 通信設定

通信設定画面	③ 設定追加
通信環境入力画面	④ 通信環境名を入力（例：ホテル） 次へ
回線設定選択画面	⑤ <自動（内線）>を選択して 次へ
ホスト選択画面	⑥ ホストを選択（例：PC-VAN） 追加 → 次へ
ID 設定選択画面	⑦ 〈接続時に指定〉を選択して 次へ
接続先選択画面	⑧ 〈新しい設定〉を選択して 次へ
接続先設定画面	⑨ 電話番号１（A） の 参照
接続先選択画面	⑩ 接続先を選択（例：東京（28800 V.42bis）） OK
接続先設定画面	⑪ OK
確認画面	⑫ 確認後、完了

注意！ ⑩の画面に 参照 が表示され、接続先を一覧画面から選択できるのは⑦でホストに PC-VAN または NIFTY-Serve を選んだ場合です。その他のホストを指定した場合は、接続先の電話番号を直接入力してください。

参考 内線を使用していない電話回線（例：自宅）につなげて通信を行う場合は、回線設定選択画面から<自動（直通）>を選択してください。

■通信環境を切り替える場合

2線式電話回線用の通信環境がすでに作成されている場合は、以下の手順で通信環境を切り替えます。

画 面	操 作
デスクトップ画面	① 「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② ▼ で通信環境のリストを表示
メール一覧画面	③ 通信環境を選択

参考 通信設定画面でも通信環境の切り替えができます。

■通信環境を変更する場合

作成した通信環境の内容を一部変更する場合は、通信設定画面で必要な変更を行います。

画 面	操 作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② [通信設定]
通信設定画面	③ 必要に応じて、[ホスト追加] [ホスト削除] [回線設定] [接続先] [ID] [メール動作] [接続順]
通信設定画面	④ [×]

[参考] [ホスト削除] [接続先] [ID] [メール動作] [接続順] は、あらかじめ一覧の中から変更するホストを反転表示させておく必要があります。

発信元の設定（作成・切替・変更）

どこから通信を行うかによって、発信元の作成・切替・変更をする必要があります。

[参考]外線発信番号と付加番号の設定または変更を行う場合は、「いろいろな場所での通信設定」(P34)を参照してください。

■新しい発信元を作成する場合
（ホテルの部屋から外線発信する例）

通信を行う地域、場所の情報を定義した「発信元」を作成します。

画 面	操 作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② 
通信のプロパティ画面	③ ダイヤル設定から 発信元の[追加]
発信元の作成画面	④ 新しい発信元の名前を入力（例：都内ホテル）[OK]

いろいろな場所での通信設定

オフィスやホテル等の内線を使用している場所から外線に電話をかける時は、最初に外線発信番号（「0」等）を押します。このような、いわゆるゼロ発信が必要な場所では、設定もゼロ発信用の設定にしておく必要があります。

ゼロ発信の設定

オフィスやホテル内など、内線から外線に接続したい場合は、以下のように設定します。

画面		操作
メール一覧画面	①	[通信設定]
通信設定画面	②	[ダイヤルのプロパティ]
ダイヤルのプロパティの説明画面	③	[OK]
通信のプロパティ画面	④	電話回線の設定 市外局番(A): 国番号(C): 回線:トーンまたはパルス 「ダイヤルパターンの設定」で先頭が「0,」になっていることを確認する。 [OK] 通信設定画面に戻る。 （「0,」になっていない場合は⑤−⑨の手順を行う）
通信のプロパティ画面	⑤	発信元を[▼]で表示させて「勤務先」を選択。 [追加]
発信元の作成画面	⑥	発信元の名前を入力して [OK]
通信のプロパティ画面	⑦	[編集]
ダイヤルパターンの編集画面	⑧	「0,」を先頭に入力して[OK]

通信のプロパティ画面	⑨	[OK]

次に回線設定を以下のように行います。

画面		操作
通信設定画面	①	[回線設定]
回線設定名一覧画面	②	回線設定名を選択 [追加] または [修正]
回線設定画面	③	[モデムの設定]
モデムの設定についての画面	④	[OK]
デバイスのプロパティ画面	⑤	「ダイヤルのオプション」を選択。 「発信音がしてからダイヤルする(W):」のチェックを外して [OK]
回線設定画面	⑥	[OK]
回線設定名一覧画面	⑦	[OK]

外線発信番号の変更

内線から外線に接続するときの外線発信番号が「0」以外の場合、以下のように設定します。

画面		操作
メール一覧画面	①	[通信設定]
通信設定画面	②	[ダイヤルのプロパティ]
ダイヤルのプロパティの説明画面	③	[OK]
通信のプロパティ画面	④	電話回線の設定 市外局番(A): 国番号(C): 回線:トーンまたはパルス [編集]

ダイヤルパターンの編集画面	⑤	最初の0を外線発信番号の数字に変更して [OK]
通信のプロパティ画面	⑥	[OK]

回線設定は、ゼロ発信の場合と同じ設定にします。

画面		操作
通信設定画面	①	[回線設定]
回線設定名一覧画面	②	[追加] または [修正]
回線設定画面	③	[モデムの設定]
モデムの設定についての画面	④	[OK]
デバイスのプロパティ画面	⑤	「ダイヤルのオプション」を選択。 「発信音がしてからダイヤルする(W):」のチェックを外して [OK]
回線設定	⑥	[OK]
回線設定名一覧画面	⑦	[OK]

[参考]直通でダイヤルできる場所（個人宅等）から通信する場合は、「ダイヤルパターンの編集画面」の「市外通話」「国際通話」の最初の「0,」を削除しておく必要があります。ただし、発信元を「自宅」に設定している場合は、最初の「0,」はありません。

付加番号の設定

第二電電などを使う場合の付加番号を設定します。

画面	操作
メール一覧画面	① 通信設定
通信設定画面	② ダイヤルのプロパティ
ダイヤルのプロパティの説明画面	③ OK
通信のプロパティ画面	④ 電話回線の設定 市外局番(A): 国番号(C): 回線:トーンまたはパルス 編集
ダイヤルパターンの編集画面	⑤「市外通話」、「国際通話」の先頭に必要な付加番号を追加して OK
通信のプロパティ画面	⑥ OK

参考 回線に切換アダプタ（回線の自動選択を行う）がついている場合は、上記の手順は必要ありません。

電子メール

電子メールを送受信する前に、次のことを行ってください。

・利用環境に合わせてあらかじめ通信環境を設定する

・回線を接続する。

回線の接続は［送信］、［受信］、［直接送信］を選択する前までならいつ行ってもかまいません。

メールの設定をする

画面	操作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	②［メール設定］
メール設定画面	③ 受信または送信のメール設定後［OK］

メールを作成して送信する

画面	操作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	②［新規メール］
メールアシスタント画面	③ 必要な設定を行い［OK］
宛先設定画面	④ 表題を入力（例：testmail）［Enter］
宛先設定画面	⑤ 種別選択（例：［To］） メールホスト選択（例：［PC-VAN］） メールアドレス指定（例：AAA12345）［Enter］ 名前指定（例：日電太郎）［Enter］ ［確定］
ワープロ画面	⑥ 文書作成➔［ファイル］➔［終了］
保存メッセージ	⑦［はい］

送信確認画面	⑧	送信方法を選択（例：「送信予約」） 送信形式を選択（例：「テキスト形式」） OK
ID/パスワード入力画面	⑨	（「直接送信」選択時、ID 設定が「接続時に指定」になっている場合） ID とパスワードを入力後 OK

送信予約メールを修正して送信する

画面		操作
デスクトップ画面	①	「MGメール」アイコン
メール一覧画面	②	「送信 BOX」の予約メールを選択
メール一覧画面	③	[ファイル]➔[開く]
ワープロ画面	④	メール文書修正➔[ファイル]➔[終了]
保存メッセージ	⑤	はい
メール一覧画面	⑥	送信
ID/パスワード入力画面	⑦	（「直接送信」選択時、ID 設定が「接続時に指定」になっている場合） ID とパスワードを入力後 OK

MGエディタからメールを送信する

画面		操作
デスクトップ画面	①	「MGエディタ」アイコン
エディタ画面	②	文書作成後、［ファイル］➔［メール登録］
宛先設定画面	③	表題を入力（例：testmail） Enter
宛先設定画面	④	種別選択（例：To） メールホスト選択（例：PC-VAN） メールアドレス指定（例：AAA12345） Enter 名前指定（例：日電太郎） Enter 確定

送信確認画面	⑤ 送信方法を選択（例：「送信予約」） 送信形式を選択（例：UUENCODE） OK
「送信予約」選択時 エディタ画面	⑥ [ファイル]➔[終了]
「送信予約」選択時 エディタ確認画面	⑦ はい
「送信予約」選択時 ファイル保存画面	⑧ ファイルを保存するフォルダを選択。 （例：My Documents） OK ファイル名を指定（例：testmail） OK
ID/パスワード入力画面	⑦ （「直接送信」選択時、ID 設定が「接続時に指定」になっている場合） ID とパスワードを入力後 OK

作成済みのメール文書を送信する

画面	操作
デスクトップ画面	① 「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② 「送信 BOX」の予約メールを選択
メール一覧画面	③ 送信
ID/パスワード入力画面	④ （「直接送信」選択時、ID 設定が「接続時に指定」になっている場合） ID とパスワードを入力後 OK

参考 メールを送信する時に、デジタルカメラのデータを添付ファイルとして指定したり、またはバイナリメールとして送ることができます（メール一覧画面から[ファイル]－[バイナリメール作成]を選択）。
詳細は『ユーザーズガイド（ソフトウェア）編』を参照してください。

メールを受信する

画面	操作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② 受信
ID/パスワード入力画面	③（ID 設定が「接続時に指定」になっている場合）ID とパスワードを入力後 OK

受信したメールを読む

画面	操作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	②「受信 BOX」を表示
メール一覧画面	③ 表示するメールを選択して Enter

受信したメールに返信する

画面	操作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	②「受信 BOX」選択
メール一覧画面	③ 返信するメールを選択後 [通信]➔[返信]
メールアシスタント【返信】画面	④ オプションを選択
メールアシスタント【返信】画面	⑤「返信時の宛先：」を選択（例：「全ての宛先」） 「表題：」を選択 （例：Re:） 「受信メールを引用：」の指定を選択 「引用メッセージ：」（例：——） 「引用記号：」（例：>） 「元メールのヘッダ行を削除」を☑ OK
宛先設定画面	⑥ [ファイル]➔[終了]
宛先設定終了画面	⑦ 確定

ワープロ画面	⑧ 文書作成➔[ファイル]➔[終了]
保存メッセージ	⑨ [はい]
送信確認画面	⑩ 送信方法を選択（例：「送信予約」） 送信形式を選択（例：「テキスト形式」） [OK]
ID/パスワード入力画面	⑪ （「直接送信」選択時、ID設定が「接続時に指定」になっている場合） IDとパスワードを入力後 [OK]

受信したメールを転送する

画面	操作
デスクトップ画面	① 「MGメール」アイコン
メール一覧画面	② 「受信BOX」選択
メール一覧画面	③ 転送するメールを選択後 [通信]➔[転送]
メールアシスタント【転送】画面	④ オプションを選択
メールアシスタント【転送】画面	⑤ 「表題：」を選択 （例：Fw:） 「引用メッセージ：」を選択 （例：—Forwarded Message—） 「元メールのヘッダ行を削除」を☑ [OK]
宛先設定画面	⑥ 種別選択（例：[To]） メールホスト選択（例：[PC-VAN]） メールアドレス指定（例：AAA12345） [Enter] 名前指定（例：日電太郎） [Enter] [確定]
ワープロ画面	⑦ 文書作成➔[ファイル]➔[終了]
保存メッセージ	⑧ [はい]
送信確認画面	⑨ 送信方法を選択（例：「送信予約」） 送信形式を選択（例：「テキスト形式」） [OK]
ID/パスワード入力画面	⑩ （「直接送信」選択時、ID設定が「接続時に指定」になっている場合） IDとパスワードを入力後 [OK]

参考 送信 BOX 内にある文書は転送できません。送信 BOX 内にある文書を転送したいときは、［ファイル］－［移動］を選択して、その文書を送信 BOX 以外のフォルダに移動してください。

時間を指定してメールを送受信する

画面	操作
デスクトップ画面	①「MGメール」アイコン
メール一覧画面	②［設定］➔［タイマーメール］
タイマーメールのプロパティ画面	③「時間設定」（例：時刻指定の場合は、時間指定(1)をチェックし時刻を指定する） 「動作」指定（例：受信） OK
メール一覧画面	④ メール一覧画面に戻り、指定した時間にタイマーメールが起動され、指定した動作（メールの送信、受信、送受信）を行う。

注意！ タイマーメールを予約する前に次の点を確認して、そのままメールの送受信を行うことができる状態にしてください。

・電話回線に接続されている。
・通信設定が正しく設定されている。
・通信設定で ID およびパスワードが入力されている。
・通信設定の回線設定画面で「自動」に設定されている。
・電源に AC アダプタを使用している、または電池残量が十分に残っている。
・メールを受信するのに必要なメモリの残り容量が確保されている（受信をする場合）。

FAX送受信

FAXを送受信する前に回線の設定を行ってください。
回線の設定は［送信］または［受信］を選択する前ならいつ行ってもかまいません。
また、PHSではFAXの送受信は行えません。

FAXを送信する

画面	操作
デスクトップ画面	①「MG　FAX」アイコン
ＦＡＸ画面	② 画面左の「FAX送信」を選択
ＦＡＸ画面	③「文書」を指定（［参照］または［メール参照］） 「タイトル」指定（例：送信テスト） 「FAX番号」指定（例：0123−4567） 「氏名」指定（例：日電太郎） 「会社名」指定（例：日本電気） ［設定］➔［通信設定］
通信設定画面	④ モデムを選択後 ［OK］
ＦＡＸ画面	⑤ ［送信］

FAX送信する場合は、接続する回線によって次のように条件を設定してください。

- ディジタル公衆電話（NTTカードCを使う場合も同様）
  通信設定画面で「モデム選択」を接続しているモデムに設定し、「ダイヤルのプロパティ」の「電話回線の設定」を「トーン」に設定してください。
- ２線式電話回線（モジュラータイプ）
  通信設定画面で「モデム選択」を接続しているモデムに設定してください。
- デジタル携帯電話
  通信設定画面で「モデム選択」を接続しているモデムまたはセルラカードに設定し、「ダイヤルのプロパティ」の「電話回線の設定」を「トーン」に設定してください。

FAXを受信する

画面	操作
デスクトップ画面	①「ＭＧ ＦＡＸ」アイコン
ＦＡＸ画面	② 画面左の「FAX受信」を選択［設定］➔［通信設定］
通信設定画面	③ モデムを選択後 OK
ＦＡＸ受信画面	④ 受信
ＦＡＸ受信画面	⑤ 受信が終了すると、受信記録に表示 ➔表示でＭＧ ＦＡＸエディタに表示

注意！ FAX を受信する場合は、必要なメモリ容量が確保されている必要があります。

参考 外出先でメール文書やその他のデータを印刷したいという場合,近くのFAXへ送信して出力し、プリンタの代用として使うという方法があります。

故障かなと思ったら

簡単なトラブル・シューティングです。故障かなと思ったらまず以下の点を確認してください。

■電源が入らない

(1)新しい電池を入れる

ＡＣアダプタを使用していても主電池が消耗していると電源が入りません。消耗をしている場合は新しい主電池を入れてください。

(2)主電池カバーロックスイッチの位置を確認する

主電池カバーロックスイッチが解除位置になっていると、電池交換中と認識されるため電源が入りません。スイッチがクローズになっていることを確認してください。

(3)電池の方向を確認する

電池が逆に入っていませんか？電池の入れ方を確認してください。

(4)画面の表示を確認する

画面の表示が薄くなっていたり、濃くなっていたりして、電源が入っているのが気づかない場合があります。

[Alt]+[◁][▷] キーを押して調整してください。

以上の点に問題がなければ、リセットスイッチを押してください。それでも電源が入らない場合には、電池をすべて抜き３０秒程度間隔をおいてから主電池→副電池の順で電池を装着し直し、リセットスイッチを押してください。

上記の手続き後も電源が入らない場合には、保守サービス会社に連絡してください。添付品のサービス網一覧を参照してください。

■画面が暗い

(1)コントラストを調整する

Alt+<キーを押すと、画面は明るくなります。

(2)バックライトを点灯・消灯する

本体上のバックライトスイッチを押すと、バックライトが点灯し、暗い場所でも画面をより鮮明に見やすくすることができます。点灯も消灯も同じ操作で行います。

参考 バックライトを点灯したあと、一定時間キーボードやタッチパネルからの操作がない場合は、自動的にバックライトを消灯して節電するように設定されています(乾電池使用時は約１５秒後、ACアダプタ使用時は約1分後)。
設定を変更する場合は、コントロールパネルから[バックライト]アイコンを選択して行います。

注意！ バックライトを頻繁に使用すると、電池の消耗を早めます。

■市外局番がダイヤルされない

「発信元(ダイヤルのプロパティ)」に設定した所在地の市外局番と、接続先の市外局番が一致していると、市外局番を省略してダイヤルします。発信元と接続先に設定した市外局番を確認してください。

■ダイヤルしたが電話がつながらない (話中音になってしまう)

回線種別(トーン,パルス)が間違っている可能性があります。「通信のプロパティ」画面で回線の設定を確認してください。
また、電話番号が正しくない、外線発信番号の「0,」等が入ってしまっている等の原因も考えられますので、同様に確認してください。外線発信番号が入っていた場合には、「通信のプロパティ」画面の「ダイヤルパターンの設定」を変更してください。

■ゼロ発信ができない

「発信元（ダイヤルのプロパティ）」の「ダイヤルパターンの編集」で、各パターンの先頭に「0,」が追加されていることを確認してください。また、回線設定の「モデムの設定」で「発信音がしてからダイヤルする」のチェックが外れていることも確認してください。

■回線接続時に異常終了する

以下の3点を確認してください。

・「通信のプロパティ」画面の電話回線の設定は正しいか。
・モデムの設定は正しいか。
・機器は正しく接続されているか。

■ＦＡＸ使用時に「モデムを選択してください」のメッセージが表示される

「通信設定」画面で正しいモデムが設定されているかどうか確認してください。

■ＦＡＸ使用時に回線が接続されない

「通信のプロパティ」画面で、ダイヤルパターンの設定を確認してください。

■ＦＡＸ使用時に「プログラム実行用メモリが不足しています」のメッセージが表示される

・複数のアプリケーションを起動している場合は、使用していないアプリケーションを終了させて、再実行してください。
・デスクトップ画面から[スタート]－［設定］を選択し、コントロールパネルの「システム」で、プログラム実行用のメモリを増やしてから再実行してください。

この他にも、原因のわからないトラブル、困った点や分からない事などがあった場合には、「NEC Mobile Gear インフォメーションセンター」に連絡してください。

電池の交換

電池の消耗状態を調べる場合は、以下のように行い方法ます。

電池の状態は［スタート］➔［設定］➔［パワーマネージメント］で表示される「パワーマネージメントのプロパティ画面」で確認できます。

注意！

・主電池と副電池の両方を交換する場合は、先に副電池を交換してから主電池を交換してください。両方の電池を一度には抜かないでください。ユーザメモリのデータが失われます。
・主電源が消耗している状態で使用を続けると、自動的に電源が切れます。速やかに電池の交換を行ってください。
・主電池を抜いた状態で長時間放置すると、副電池を消耗しユーザメモリが消えることがあります。
・電池を節約するためにＡＣアダプタと併用することをおすすめします。

ご利用になる接続先ホストのＩＤ等の覚えに利用してください。ただし、パスワードは盗用される恐れがありますので、この冊子や他人の目にふれるようなところには記入しないでください。

<MEMO>

808–882990–003–A